

# 石川病薬ニュース

石川県病院薬剤師会会報

令和4年(2022)/3.31 発行 No. 179

## CONTENTS

- ・巻頭言
- ・第31回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会
- ・委員会報告
- ・となりの薬薬連携物語
- ・薬局の窓口から
- ・エキスパートに聞く! ~輝く石川のキラ星~
- ・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
- ・南船北馬
- ・寄稿
- ・病薬ニュース索引



## 〔巻頭言〕

持続可能な地域医療を担う薬剤師として

石川県病院薬剤師会理事 珠洲市総合病院 薬局長 大屋 正宏…… 1

## 〔第31回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会〕

金沢大学附属病院における院内製剤の管理体制の構築

金沢大学附属病院 板井 進悟、他…… 3

多職種との協働による手術室における重要薬適正管理への取組み

金沢大学附属病院 木山 美佳、他…… 5

AST専任薬剤師と病棟薬剤師の連携が抗菌薬適正使用に与える影響

浅ノ川総合病院 大門 美和、他…… 7

## 〔委員会報告〕

精神科病院委員会

令和3年度第1回精神科病院委員会研修会報告「～精神科の共同意思決定を学ぼう！！～」

石川県立高松病院 竹中 克之…… 9

令和3年度第2回精神科病院委員会研修会報告

NHO金沢医療センター 田淵 克則…… 11

教育研修委員会

第32回 実務者研修会報告

金沢医科大学病院 宮東 利恵…… 14

がん治療委員会

第37回がん薬物療法セミナー報告

石川県済生会金沢病院 茶野下貴恵…… 15

第37回がん薬物療法セミナー 外来化学療法・連携充実加算に関するアンケート結果

金沢医科大学病院 戸塚 弘幸…… 17

臨床実務実習委員会

第1回 実務実習アップデート研修会「遠隔実習の有効的な活用方法を考える！」研修会報告

NHO金沢医療センター 鬼頭 尚子…… 19

## 〔となりの薬業連携物語〕－YACREN研究会－

金沢医科大学病院 西田 祥啓…… 21

## 〔薬局の窓口から (83)〕

県立中央病院調剤室より～散剤調剤ロボットの導入～

石川県立中央病院 南 憲一…… 23

## 〔エキスパートに聞く！ ～輝く石川のキラ星～ (21)〕

骨粗鬆症マネージャー

米澤病院 織田 昌子…… 25

〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕 …………… 28

〔南船北馬〕 …………… 29

〔寄稿〕「古寺との結縁-56」 明月院・長谷寺・高德院～鎌倉の名刹を巡る～ 院瀬見義弘…… 30

〔病薬ニュース索引 (177号～179号)〕 …………… 34

## 〔編集後記〕

## 〔病薬ニュース発行欄〕

※石川県病院薬剤師会ホームページ・会員専用ページのパスワードが新しくなりました。

表紙写真 撮影  
：熊走 尚志

彼岸桜と緋寒桜

表紙は某寺院の参道、両側に咲くのは彼岸桜と緋寒桜（寒緋桜）（ヒカンサクラ）。前者は3月中旬頃から咲き始め後者は1～3月頃に開花、この年は天候の具合で同時に咲いたところを見ることができたようです。裏表紙は兼六園の梅林（旧長谷川邸跡）で20種類の梅があり、白梅が約140本、紅梅が約60本で、写真の梅は白枝垂（しろしだれ）、桜も梅もバラ科サクラ属とのことです。

## 持続可能な地域医療を担う薬剤師として

石川県病院薬剤師会理事 大屋 正 宏  
珠洲市総合病院 薬局長

珠洲市総合病院の大屋と申します。昨年度より石川県病院薬剤師会の能登北部地区担当理事を拝命し、地域の課題や実情を県病薬に話す機会をいただいております。また、参加している委員会では貴重な経験が出来ていると感じております。

さて、表題の「持続可能な地域医療」に関しては、薬剤師の中では地域包括ケアシステムの構築と併せて薬業連携の推進などが近年数多く取り上げられています。この場では他地域と少し異なった事情の能登半島と珠洲市についてご報告します。

珠洲市は人口約13,400人で本州にある市の中で最も人口が少ない市です。人口ピラミッドも過疎化・少子高齢化が進み若者～中年の0.9人が1人の高齢者を支える社会となっています。ちなみに全国平均は2.1人に対して1人です。これらの問題は珠洲市だけに限らず、奥能登の高齢化率は40年先の日本の未来とも言われています。当然地元薬学生の全体数も少なく、当院でも長らく募集しても薬剤師が来ない状況です。複数名の薬剤師退職に伴い病棟業務の休止等の影響が出ています。このような問題は日本薬剤師会の第98回定時総会にて柏原先生が「薬剤師による調剤の崩壊」といった内容で能登半島の薬剤師不足についてより詳しく質問されていますので、議事録をご一読いただけましたら幸いです（日本薬剤師会雑誌2021 vol.73 第98回定時総会議事録）。

また、居住地域でかかりつけ薬局が存在しない当地域では、高齢の患者さんを門前薬局に出す院外処方には踏み切れず、図らずも院内調剤率100%が当院の特徴となっています。当院では薬剤師数減少のため、何度も院外処方への移行を検討してきましたが、その度に更なる業務効率化で対応してきました。院内医薬品管理の外部SPD供託、薬局助手の大幅増員（調剤補助員による医薬品コードを利用したピッキングシステム・窓口業務・薬袋取り揃え等に従事）、散剤の全自動調剤ロボット採用、錠剤監査支援システム採用等が主な新規導入項目となります。しかし、これらのシステム導入のみでは問題全てを解決出来るはずもありませんでした。例えば、365日交替で行われています薬剤師日直が挙げられますが、少数の薬剤師全員でお互いの事情を融通し合い、使命感を持って対応しています。

この様な連帯感は様々な場面で発揮されます。特に近年強く感じたのが、この度のコロナ禍でのワクチン接種対応で、珠洲市は重症化リスクの高い高齢者の割合が最も高い事情が考慮され石川県で最も早く一般高齢者向け接種が開始されました。当時はワクチンに関する情報が極端に少ない中、情報収集にあたり、当院の薬剤師は珠洲市唯一の薬剤師集団としての自覚を持って接種計画の初期段階から関わっていきました。地元医師会と連携し接種体制を整え、全市民分のワクチン管理、接種協力開業医への分配対応、当院接種者用の希釈作業や分注作業（一部看護師が対応）を平日は勿論、一部休日も交代で対応しましたが、問題なくスムーズに対応する事が出来ました。

この様な案件以降、地域に薬剤師は必要であると、医療有る所に薬剤師が必要であると、多くの市民から認識されたと感じる機会が多数ありました。この様な事からも完結型の地域医療を担う薬剤師の確保は急務であります。

薬剤師確保につきましては、行政の協力で他職種奨学金からの増額や雇用条件の柔軟対応（病気・子育てに対して）等で少しずつですが明るい未来も見えてきており、その事を最後に報告致しまして今回の巻頭言とさせていただきます。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

